

シグマ研究委員会

昭和59年度 第5回運営委員会議事録

日 時 昭和59年10月19日(金) 13:30～17:30
場 所 原研本部第6会議室
出席者 原田(委員長, 原研), 梶山(東北大), 中嶋(法大), 村田(NAIG),
五十嵐, 菊池, 長谷川, 松浦(原研)
オブザーバー: 飯島, 川合(NAIG), 北沢(東工大), 浅見(原研)

配布資料

1. 前回運営委員会(59.9.14)議事録(案)
2. 2nd Announcement the 2nd IAEA Meeting of the Coordinated Research Programme on "Measurement and Analysis of 14MeV Neutron Nuclear Data Needed for Fission and Fusion Reactor Technology"
3. 第14回 INDC 会合資料(I), Action
4. " (II), Subcommittee on NDS Meeting and Future Programme
5. 「核データニュース」に関する答申
6. 第23回原子力総合シンポジウムプログラム(案)
7. JNDC 1984 Seminar on Nuclear Data, Programme(案)
8. ガンマ線生成核データWG資料
9. ガス生成核データWG資料

議 事

1. 前回議事録確認
資料1について確認を行い, 一部修正の上了承された。
2. 事務局報告
 - (1) 核データ研究会の出席申し込みの状況について報告があった。
 - (2) 最近のシグマ委員会関係の報告書等の発行状況について報告があった。

(3) 資料2についてアナウンスがあった。

3. 第14回 INDC 会合報告

原田氏から、10月1日～5日にIAEA本部で行われた第14回 INDC 会合の概要について、資料3、4を用いて報告が行われた。その中で、中国からは2名がオブザーバとして出席したこと、IAEAでは医学用核データや地下探査の核データを手掛けようとしていること等の話があった。また、今後開催が予定されている国際会合として Advisory Group Meeting on Neutron Source Properties, Specialists Meeting on Materials Properties Data for Fusion などの説明があった。

4. 1988年国際会議の準備委員

原田氏から、INDCのAction(資料3)として1988年に日本で核データの国際会議を開く可能性について関係各庁に打診して、その結果をINDCとNEANDCのchairmanへ非公式に返答するようにと決められており、近日中に役所へ行って説明をする予定であるとの説明があった。前回の議事にもとづいて新たに発足する1988年国際会議準備委員会のメンバー9名が次のように指名され了承された。(敬称略)

木村逸郎(京大炉), 秋山雅胤(東大炉), 菅原 彬(MAPI),
川合将義(NAIG), 白方敬章(動燃), 五十嵐信一, 松浦祥次郎,
菊池康之, 水本元治(原研)

なお、この準備委員会では organizing programme committee が発足するまで、来年一杯を目途にして多方面について検討をしてもらうことにした。

5. 核データニュース検討小委員会の答申

浅見氏から、資料5の核データニュースに関する答申書の説明が行われ、さらに中嶋氏から補足の説明があった。主な内容は、新たに編集委員会を設けること、編集委員(5～6名)の任期は2年で、半数ずつ交替すること。発行は年3回(1, 5, 9月), 「シグマ研究委員会」の欄を設け、シグマ委内の情報交換・流通にも力を入れる等であった。

討議の結果、答申書は原案通り受理され、それにもとづいて新たに編集委員会を設けることにした。また、編集委員には検討小委員全員(中嶋, 喜多尾, 吉田, 中川, 浅見の各氏)と原田氏を選出され、編集委員長には浅見氏が当ることになった。

6. 原子力総合シンポジウム

村田氏から、資料6により来年2月の原子力総合シンポジウムのプログラムの案の説明があった。その中で、先の運営委での決定にもとずき「データベース」を提案したが通らなかったとの報告があった。

7. S O F T 出席報告

梶山氏から、第13回 S O F T (Symposium on Fusion Technology) の概要について説明があり、その会合の際にオランダの Petten で J E F とは別に核融合炉開発用の核データライブラリー E F F を作成しているとの話があったことが紹介された。

8. 核データ研究会準備状況報告

五十嵐氏から、核データ研究会に中国から4名の研究者が参加する旨連絡があったことの報告とともに、それに伴ってプログラムを資料7のように変更したことが報告された。準備について討議を行い、英文の abstract を作成することにした。早急に、各講演者に依頼して、英文の abstract をA4版1頁以内にまとめて11月2日までに事務局へ送ってもらうことにした。

また、五十嵐氏から11月15日の研究会終了後、中国との今後の協力について日本側の代表(約10名)と懇談を行う予定であること、中国人の国内の訪問の際の協力などについて説明があった。

9. WG 活動報告

(1) ガンマ線生成核データWG

北沢氏から資料8により活動の概要について説明が行われた。その中で、最近、評価の実例をいくつか JAERI-memo にまとめ、評価者に配布したとの説明があった。これに対して、軽・中重核で特別に評価がむずかしい点について質疑応答があり、次の機会に軽・中重核の評価例について話をしてもらうことにした。

(2) ガス生成核データ・サブWG

飯島氏から資料9を用いて活動の概要について説明があった。その中で(n , P), (n , α) 断面積の peak value の systematics, GNASH による計算例, WG の作業状況等について話があった。これに対して, GNASH コードの改訂等について質疑応答が行われた。

10. J E F と E N D F / B との協力について (II)

前回に引き続いて討論を行い、次のような意見が出た。

- J E F のデータを貰えと言ったのは, J E F の評価のときに使ったパラメータ

と同じものを使うと言うことである。

- ベンチマークで JEF に協力したら良い。
- 日本は JEF - 1 のベンチマークテストで協力することを伝えてある。ヨーロッパ各国のやり方が統一されていない。
- ガンマ線生成の評価では協力できるのではないか。使用する基本パラメータを交換し合ったらどうか。
- これらは JENDL で統一してやるのではなく、評価者個々が決めればよいことである。
- ベンチマークテストでも各国で炉定数の規格が異なるのでこちらのものを押しつけるのはまずい。等々。

次回は12月21日(金)原研東海研で行う予定。